

第2次門真市行財政改革推進計画（案）への市民意見一覧

意見の内容は全て応募された原文のままとなっています。

1

無駄な計画はすべて凍結せよ。
駐車いはんのばっ金を増やせ。
交通事故に強い町にせよ。
守口市、寝屋川市と協力して八尾茨木線を安全な道にせよ。
赤字施設は全て廃止せよ。（教育関係は除く）
小、中高生が安心して登下校できるようにせよ。
門真市駅に準急や急行を止めろ。

2

全体的には、やむを得ないと思います。中には、こんなこともまだ見直していなかったのかと驚いております。
しかし、市民に関わる事が多く、その割には職員の給料など、新たな削減がないのは納得が出来ません。
民間では先ず、社員が我慢する事から再建が始まりますが、公務員はいいですね。
唯一市長さんなどの給料の減額があるだけです。
人事行政の運営では、市長さんに比べて議員は、たったの3%減額でのうのうとしている。
市民も努力しますが、職員の方も議員の方も皆で協力しませんか。
市民にだけにしわ寄せだけはやめてください。
市長さんががんばってください。

第二次行政改革推進計画（案）の見直しを要望する。このような計画を策定しなければならない程に、市の財政を悪化させたのはひとえに門真市行政の運営の失策からである。この第二次行政改革推進計画（案）だけでなく、他の事業および市民サービス事業においも、公平性や受益者負担という言葉で市民に一方的な負担を強いている。今回の市民健康保険料事業特別会計の健全化や税込納率の向上などの回収率の強化に主眼をおいた計画であるが、その前にまず何故回収率が低いのかを検討すべきではないか。私は門真市の保険料を大阪府下や大阪府近隣の他府県下の市の保険料（所得割、均等割、世帯割）を比較したが、門真市は飛び抜けて高い保険料の設定をである。高い保険料率を設定すればする程、保険料を支払えなくなる人が多くなり、より収納率の低下を招き、赤字という結果となる。国民健康保険料を支払えない無保険者は病気で病院にいけない。また、保険料金は支払っているが保険料が高くて家計を圧迫している人も多くいる。門真市も財政も逼迫しているなら、市民の家計もまた逼迫している。市は財政が逼迫すれば市民からお金を徴収する市政計画を制定し実施すればなんとか財政はのりきれるであろうが、市民の家庭ではそうはいかない。まずは、保険料を確実に支払できる低保険料率を設定をすべきである。特に苦しいのは、二百万以上～四百万円台の収入世帯である。この世帯は数的に一番多い。だからであろう。これらの世帯は減免措置の対象にはならず、保険料負担額も収入の割合からみてもかなり高額の保険料を支払っている。生活をするには、国民健康保険料だけを支払えばいいわけではない。他の社会保険料や生活費も必要である。高額な国民健康保険料は家計を圧迫している。このような市民の生活状況を把握する事なく、門真市は、国民健康保険料率の設定額の高い額を市で決め、保険料金の回収率を上げて行く計画を優先するのは根本的解決にはならない。まず、高い保険料率の見直しをし、かつ特に減免対象帯の収入額を三百～四百万円台の世帯まで上げる見直すべきである。市への税源移譲で門真市行政は市税は増収されているのだから、市民に負担（特に経済的負担）をかけるばかりの計画案内を策定をすべきではない。この第二次行政改革推進計画（案）は身内（門真市行政や職員）は甘く市民には負担を強いる案である。まずは門真市行政として市職員かの考え方や市民へのサービスや言動から見直しを始めるべきである。職員の給与体制や福利厚生的大幅カットや丁寧な接遇の強化から始めるべきである。また、市長も直接市民の声を聞く場をもうけるべきであろう。